

◆ 平成 27 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 荒川の自然を守る会

代表者：代表理事 菅間宏子

URL : shsugamame2317@jasmine.ocn.ne.jp

1. 活動が必要とされた状況

三ツ又沼ビオトープ、里山再生地は外来植物の増殖が激しい。外来植物を除去作業を行ってきたが、在来野草を育て、除去した後に植え、生物多様性の維持をはかる必要がある。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

9月6日（日） 15人 植物観察と管理作業丸山公園移植地

10月4日（日）16人 三ツ又沼ビオトープゾーン5の草刈り

と野草種まき（オグルマ・トモエソウ）野草植え（チョウジソウ6本来年開花）

10月10日（土）9人 植物観察と管理作業 丸山公園移植地

11月21日（土）6人 植物観察と管理作業 丸山公園移植地
ハギの刈り取り

11月28日（土）14人 植物観察と管理作業 愛宕脇移植地

12月16日（水）4人 宮前樹木に印付け刈り払い作業

2月7日（日）7人 里山の下草刈り 子供の城北の里山

2月28日（日） 植物観察と管理作業 丸山公園移植地

3. 活動の成果

当会の野の花いっぱい里山プロジェクトは里山再生と在来野草増殖を目的に2009年開始した。2011年に追加拡大し、移植した植物の管理、外来植物の抜き取り等を行ってきた。2009年開始部分は木が成長し、間伐や枝おろしが必要になった。2011年開始部分は木の成長と同時に草本の勢いも大きく刈り払い機による効率的な草刈りが必要な状態であった。助成機材によって作業がはかどった。おかげで今年は外来植物の減少して里山らしい様相を見ることができた。

また借りている畑での野草栽培により、在来野草の里山再生地や三ツ又沼ビオトープへの移植をすることができた。栽培用の畑で採取した種子は今後の在来種の増殖に利用している。1部は東京大学の山田晋先生に研究用に提供した。

借用の畑と湿地ではまだ移植するほど増えていないが、保護育成中の在来野草もある。

4. 今後に残された課題

会員の高齢化により作業負担が大きくなっている。一般の人への呼びかけも思うに任せない状態である。今後一般の人の参加を増やすための働きかけを工夫する必要がある。

上尾道路にある里山再生地は大宮国道が年2回草刈りをし、当会作業による刈り草等も集草してもらっている。他の場所の集草はできないのでその場に置いている状態である。里山の成長により伐採木が増加し、対応が大変になってきている。



三ツ又沼ビオトープ、野草増殖活動



野の花いっぱい里山再生事業



在来野草の栽培増殖地